

令和6年度小平市立小平第一中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

知識・技能に関しては、伝統文化に関する事項が全国平均よりも13ポイント程、高かった。しかし、言葉と情報に関する分野は平均をやや下回っている。思考・判断・表現に関しては、話すこと聞くことは全国平均よりも6ポイント程、書くことについてはやや上回ったものの、読むことはやや下回っている。

課題

分析の結果、「具体と抽象」など情報と情報の関係を捉えることや、文学作品の描写を基に考えることが難しい生徒がいることが分かった。今後、思考をする際の手立てとなるような概念や言葉の習得に力を入れる必要がある。また、描写が示すことを読解する練習をしていきたい。

学校で取り組む具体的な改善策

自分の考えをただ書くだけの作業にするのではなく、「読み手」を意識して構成を練った上で書くようにしていく。2学期の授業から、読み取りをする際には内容の読解だけではなく「構成」「作者の意図」を考える時間を設けて、3学期にはそれを言語化できるようにしていく。今後は、日常的に辞書などで言葉を調べるように促して語彙を豊かにしていくことで、自分の考えを書けるようにしていくだけでなく、読解にいかしていきたい。

【数学】

状況の分析

「数と式」や「データの活用」といった計算問題や分析問題の正答率は全国平均よりそれぞれ約7ポイント高く、東京都平均も上回っていた。

「図形」や「関数」については、全国平均は上回っていたが東京都平均よりもそれぞれ0.7ポイント下回っていた。

課題

図形の問題では、無回答は多くないが、式や文章で表すことについての正答率が低い。

分析により、問題の意図が理解できていないことや考えを表現することができていないことが分かった。今後、問題文と図形を照らし合わせて読み取る力、自分の考えを文章で表現する力を一層育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

関数や図形の範囲に関する授業内でデジタル教材等を活用して、図形やグラフの動きを視覚的に捉えさせた上で、問題文の意図を整理し、何を求められているのかを確認する時間を確保する。

また、証明や説明問題、計算問題において、自分の考えを言語化して表現すること、文字化して表現することについての課題を授業内で実施し、それを他者と共有し表現力を向上させる取組を実施する。

【質問紙】

状況の分析

課題

本校では ICT 機器を使った授業を頻繁に行っており、それらの授業では生徒が自分のペースで、楽しみながら学習を進めることができていることが読み取れる。

一方で、平日、ゲームや SNS、動画視聴時間が「4 時間以上」と答えた生徒が都や全国平均よりも多く、特に SNS、動画視聴時間については 6.4 ポイント高かった。反対に授業時間以外に勉強を「全くしない」という生徒は平日で 12.5%、休日では 27.1%と、都や全国平均を上回っている。

ゲームや SNS の利用、動画視聴などによって、学習時間が確保できていない状況が読み取れるので、保護者と連携してスマートフォンなどの利用の制限をすることや、教科の授業や学活、総合的な学習の時間などを通して学習への興味や意欲を喚起していくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

学級活動の時間や進路学習などを通して、家庭学習の必要性を伝えるとともに、教科指導においては授業内で学習への興味や意欲を喚起する構成を工夫し、適切な家庭学習の課題を提示する。本校の生徒は ICT 機器を用いた学習に有効性を感じており、ICT 機器を使用した課題にするなどの工夫も考えられる。

スマートフォン等の利用に関しては、保護者会や三者面談などを通して保護者と課題意識を共有し、生徒が納得した上で、使用時間を短くできるようにはたらきかける。